

# 保育かながわ

発行所  
横浜市神奈川区沢渡4の2  
一般社団法人  
神奈川県保育会  
発行人  
都 築 融 光  
題字  
故内山岩太郎筆

## 保育の日 前夜祭

平成二十一年十二月四日、  
金曜日、横浜ベイシエラトン  
ホテル&タワーズ四階「清流」  
において、保育の前夜祭が、  
一般社団法人神奈川県保育会

主催により、約百二十名の参  
加で行われました。「神奈川県  
保育の日」を翌日に控え、保  
育関係者の皆様が一堂に会し、  
この一年の保育功労受賞者の  
皆様をお招きしてお祝いする  
とともに、日ごる保育業務に



専念されている職員の皆様方  
のご労苦をねぎらい、保育事  
業のより一層の進展に資する  
ことを目的として開催されま  
した。

開催にあたり、宮田副理事長  
の開会のことばに続き、都築理  
事長より主催挨拶がありました。  
その中で、「県保育会の組  
織ができて五十年に法人化と  
つて今日が歴史を積み重ねて  
いく大切な日となるよう、保育  
園を巣立っていった園児や保  
護者の思いも込めて花束を贈  
りたいと思います」との労をね  
ぎらう言葉と、「後進の指導に  
も努めていただきたい」との励  
ましの言葉がありました。

神奈川県独自の『保育賞』  
の褒賞制度ができて四十年が  
経ち、今年度で三百三十三名  
が神奈川県保育賞を受賞され  
ますが、参加された次の五名  
の方々に都築理事長から花束  
が贈呈されました。

相模原市すすきの保育園  
梅谷 令子 様

三浦市上宮田小羊保育園  
大川 昌 美 様  
横須賀市長岡保育園  
角田 律子 様

開成町酒田保育園  
椎野 奈緒子 様  
平塚市しらさぎ保育園  
森 蔭 敏子 様

また、厚生労働大臣表彰を  
受賞された方に、宮田副理事  
長から花束が贈呈されました。  
秦野市南秦野保育園  
及川 幸子 様

三浦市初声保育園  
高木 眞理子 様  
なお、当日はご欠席でしたが、  
平塚市須賀保育園  
石山 みよ子 様

以上の皆様方、受賞おめで  
とうございました。

ご臨席いただいた保育関係  
者及び養成校の方々など、来  
賓の皆様を代表して、神奈川  
県社会福祉協議会六戸常務理  
事、ゆりの会富米野会長から、  
お祝いの言葉をいただきました。  
アトラクションでは、長友  
美夏さんのしつとりとした伴  
奏で、荒川美江さんのソプラ  
ノの澄んだ歌声が、会場いっ  
ぱいに響き渡りました。後半  
は迫力のある楽曲のプログラ

ムに、アンコールの曲が終わ  
っても会場は、明るく楽しい  
雰囲気になっていました。

懇親会は富田顧問の「子ど  
もたちに温かく、優しく、し  
つとりとした、丁寧な保育を  
し、子どもたちがより幸せに  
なるにはどうしたらよいかを、  
保護者や若い保育者へ伝えて  
いくことが使命となる賞の重  
さを受け止めてほしい。」との  
言葉を添えての乾杯の発声に  
より祝いの宴が開かれ、初め

に、都築理事長から『喜寿の  
祝い』の花束が富田顧問に送  
られ、和やかで暖かい雰囲気  
の中で、参加者相互の親交を  
深め合いながら進められました

た。懇談の半ばには、神奈川  
県次世代育成・保健福祉特定  
課題調整担当稲垣部長から  
「保育所が地域の活力となる  
よう神奈川の保育の中身を高  
めていきたい」との挨拶をい  
ただき、終宴を迎えるのが惜  
しまれる中で、榊居副理事長  
の閉会のことばをもって終了  
することができました。

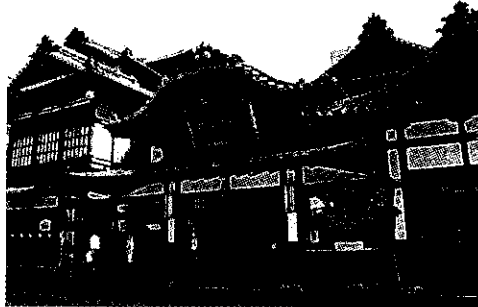
受賞者の皆様とともに、子  
どもたちが本当に幸せになる  
ように、自らも楽しく保育し  
ていきたいと思えました。

# 第 53 回 全国保育研究大会

## ～すべての人が子どもと子育てに 関わりを持つ社会の実現を目指して～

(愛媛県 松山市)

大雨の中、松山空港に向けて離陸しました。窓の外は真っ白で、途中から眼下に分厚い雲がたちこめていました。ようやく視界が開けたのは、瀬戸内海上空。途中のアナウンスで松山の天候は小雨とのことでしたが、着陸時には雨も上がっており、傘の必要もなく会場に到着することが出来ました。



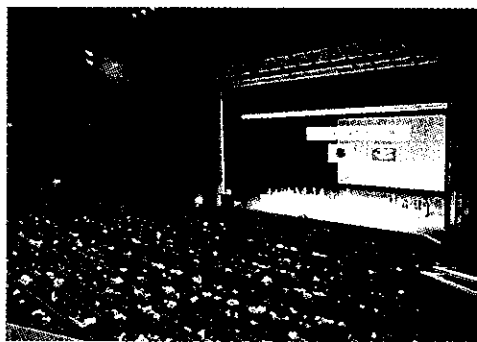
平成二十一年十一月十一日、十三日の三日間。あの日本最古の温泉、道後温泉で有名な愛媛県松山市にある愛媛県県民文化会館、通称ひめぎんホールをメイン会場として、第五十三回全国保育研究大会が開催され、全国から千七百

余名の人が集まり盛大に行われました。

オープニングは、「うわじまガイヤ・オン・ザ・ロード」と題して、地元の愛媛女子短期大学選抜チームと宇和島市保育協議会有志によるダンスと太鼓で開会前の会場を盛り上げてくれました。

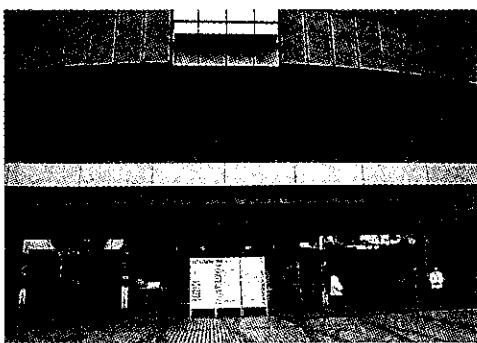
開会式は、地元の愛媛県保育協議会会長によるあいさつに続き、児童憲章の朗読、物故者への黙祷。主催者である小川全国保育協議会会長、小林全国社会福祉協議会副会長からそれぞれのあいさつの後、来賓者からの祝辞がありました。続いて表彰が行われ、会長特別感謝を含めて全国で二百九十二名の方が表彰され、神奈川県からは六名の方々が栄誉ある会長表彰を受けてその功績が称えられました。合わせて、保育活動専門員認定証授与式も行われ、全国で百三十四名の方、神奈川県からは一名の方が授与されました。表彰並びに認定された方々には、敬意を表しますとともに心から御祝い申し上げます。

開会式の最後は、子どもの最善の利益を保証する保育施策の実現に向けた全国保育研究大会のアピールが読み上げられ、全参加者の熱烈な拍手により採択され式典が終了いたしました。



休憩後の行政説明は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局の今里保育課長より、「保育行政の動向と課題」と題して説明がありました。冒頭に政権交代した民主党のマニフェストにも「質の高い保育で保育所の増設などにより待機児童を解消すること」が取り上げられており、従前から厚労省で掲げているものと同じであることを確認されました。説

明は、保育所の待機児童が昨年から比較すると約六千人の増加幅があり、今までにならないほどの増加率になっている。需要が多いと共に、不景気が影響しているのは否定できないとの認識が示され、新待機児童ゼロ作戦の説明がなされました。その中で三歳未満児へのサービスマ提供割合を38%まで引き上げることが具体的施策としていたが、後期行動計画策定に伴い見直しがされるとの説明がなされました。続いて、安心子ども基金や地方分権改革推進委員会への対応の説明を詳細にして頂き、保育の質に深刻な影響が生じかねないため、参酌基



### 子どもの最善の利益を保証する保育政策の実現を！ ― 第53回全国保育研究大会アピール ―

四半世紀の間、いっこうに少子化はとどまっていません。本来、豊かである子どもの育ちや楽しみである子育てが、社会や家庭の変化により、育児不安や負担感となっております。さらに児童虐待や子どもの貧困の増加は、深刻な問題として顕在化してきています。こうした情勢下で、深い社会問題として顕在化してきています。このもとで、すべての子どもの健やかな育ちを「未来への投資」と位置づけ、保育・子育て支援から社会的養護までのすべての場面にわたる質の確保と量の拡充を図る「新たな次世代育成支援の枠組み」の構築の詳細検討を進めています。しかし、その一方で東京等の保育所の面積基準の標準化の方針が示されるなど、保育の質の低下が懸念される状況があります。

子どもの発達と子育て家庭への総合的な支援を社会全体の重要課題とする今こそ、国は、21世紀時代にふさわしい子ども家庭福祉の拡充とそのため財源を確保し、地方公共団体ともに、主体として子どもの育ちを保障する政策の実現をはかることが必要です。

保育所を利用する二百十万人を超える子どもと地域の子育て支援を担っている私たち保育関係者は、未来へ向かって子どもたちの健やかな育ちを守り、「すべての人が子どもと子育てに誇りを持つ社会の実現」をめざし、社会全体で政策を確立させるために、第五十三回全国保育研究大会にあたり次のようにアピールします。

- 一、私たちはすべての子どもの育ちを保障する包括的な次世代育成政策の確立に社会全体で取り組む必要を、国民に呼びかけ、理解と協力を求めます。
- 一、私たちは、生まれ育つ地域や保護者の経済状況等に関わらず、未来を担うすべての子どもの最善の利益をひとしく守るため、規制改革や地方分権改革で提起されている、保育所の直接契約・直接補助の導入や最低基準等の地方自治体への移譲に反対します。
- 一、私たちは「子どもの育ち」を主体とした子ども家庭福祉制度の確立のため、国の責任により、認可保育所を基軸として質の確保された保育・子育て支援等の基盤整備の拡充と発展を実現させていきます。
- 一、私たちは一人ひとりの子どもを主体とした保育の実践のために、最低基準や保育士等の労働条件等、保育環境の抜本的な改善を実現させていきます。
- 一、私たちは、すべての子どもの健やかな育ちが保障されるように、GDP比〇・八三%と少ない家族政策関連財源を大幅に増やすよう、国と地方公共団体をはじめ、広く社会に訴え、実現させていきます。

平成二十一年十一月十一日

第五十三回全国保育研究大会

進を提示したものの以外は、全国一律の最低基準が必要であると説明されました。また、保育制度改革等も含め全体的に丁寧な説明がなされました。引き続き、小川全国保育協議会会長から「保育をめぐる状況と全保協の対応」と題して、基調報告がありました。現状の日本の姿や子どもにも視点をおいた保育の大切さ、保育士が夢を実現できるようなしくみの必要性や今年度の全保協の取り組みなどについて話しがなされ、一日目が終了いたしました。



二日目は、大変良いお天気に恵まれ、温暖な愛媛らしい気候の中で十二の分科会が設

定され、各会場で熱心な研究討議が行われました。その中の第五分科会では、神奈川県から大和市立深見台保育園の石井真理子保育士と大和市こども部保育家庭課の川手弘子保育士両名より「多様な連携と協働をつくる〜児童虐待防止への取り組み〜」とのテーマで発表がなされました。大和市は保育園が地域の子育て支援の拠点でもあり、多様な機関との連携をする連絡会を発足し、児童虐待を未然に防いでいるとのこと。全国大会の大舞台、しかも一番目の発表と言うプレッシャーをも感じさせない落ち着いた発表で、大変素晴らしいと思いました。

最終日は、記念講演が行われ、「子どもこそ真の価値ある宝物」とのテーマで俳優の藤岡弘氏に講演を頂きました。俳優、特に仮面ライダーが余りにも有名ですが、武道家としても活躍されているそうです。また、伊予観光大使、略して「いよかん大使」もなされているそうですが、武道家と言う事もあつてか、最初

から最後まで非常に熱く、子どもの育ちや親の姿勢、家庭教育の大切さなどについて語って頂きました。最後に、次回開催地の和歌山県からあいさつと閉会のことばにより全日程を終了しました。神奈川県は、この三日間お天気に恵まれなかったようですが、松山は傘いらず。さすが、温暖な愛媛県と実感しながら来日する要人に備え厳重警戒中の羽田に舞い戻りました。



なお、第一日目の終了後に保育会主催の「お祝い・激励の夕べ」が現地の松山で行われ被表彰者と発表者にお祝いと激励を行い、神奈川の連携を誇らしく感じました。

# 食育推進委員会報告

平成二十一年七月三十一日  
 の全国保育士会食育推進研修  
 会に参加した内容の抜粋をご  
 報告申し上げます。

講義一「子どもの食育の推進  
 について」講師河野美穂氏  
 講義二「乳幼児の食事の基本  
 について」講師堤ちはる氏

要点一  
 「日本人の食事摂取基準の見  
 直し」

2010年に見直しがされ、  
 そのねらいは

- ・ 科学的根拠に基づく理論  
 及び数値の見直し
- ・ 活用の基本理論を整理  
 「食事改善」と「給食管  
 理」

- ・ ライフステージについて  
 のとりまとめ「乳児・小  
 児」「妊婦・授乳婦」「高  
 齢者」となっています。

全文は総論と各論に分かれ  
 ており、総論においての主な  
 変更のポイントは「指標の見

直し」があります。  
 左図のとおりそれぞれの指  
 標に意味があり、それを捉え  
 て考えるということですが。

指標	意味
推定平均必要量 推奨量 目安量	摂取不足からの回避
耐用上限量	過剰摂取による健康障害からの回避
目標量	生活習慣病の一時予防

各論の変更は二つあり、一  
 つはライフステージです。ね  
 らいのところ記載しました

通り三つのステージとなり内  
 容が取りまとめられました。  
 例を挙げますと、「乳児・小児」  
 では健康な乳児が摂取する母  
 乳の目安量が策定され、また  
 「妊婦・授乳婦」では妊婦の  
 体重増加が妊娠前の栄養状態  
 や妊娠中の適正増加量を考慮  
 して十二キロから十一キロへ  
 変更されました。

もう一つはエネルギーです。  
 ライフステージごとに推定エ  
 ネルギーが変更されました。  
 若年女性の基礎代謝基準値の  
 低下を踏まえ体重1kgに対  
 してのカロリーが二十三・六  
 キロカロリーから二十二・一  
 キロカロリーへと減っていま  
 す。

簡単ですが総論、各論の変  
 更のポイントを書かせていた  
 だきました。食事摂取基準は  
 数値の時代から、理論・理屈  
 の時代となり、その活用は数  
 値を当てはめる時代から考え

る時代となったのです。  
 要点二は「授乳、離乳の支  
 援ガイド」を踏まえた離乳食  
 の進め方です。おもな変更点  
 は左記の表です。

離乳の開始	生後5～6か月
離乳の完了	生後12か月～18か月まで
離乳開始前の果汁	必要ないことが明記
進め方の目安	成長曲線の検証

要点三は「集団保育におけ  
 る食育の現状と問題点」とい  
 うことで保育園での食育計画  
 についてお話がありました。  
 食育計画はすでに整備なさつ  
 ていると思われませんが、その  
 問題として以下の四つが紹介

されました。

1	計画に目指す子ども像や目標は明確か？計画的であるか？
2	評価・反省をしているか？
3	栄養士・給食担当者・保育士・職員全員で取り組んでいるか？
4	食育計画を「食」にだけ焦点をあてて作成していないか？

保育指針の中にも各種計画  
 に対しての評価・反省は重要  
 視されています。食育計画も  
 それに準じて評価・反省は必  
 然ということですが。  
 以上簡単ではありますが研  
 修の一部をご紹介しますが  
 た。これらが皆様の園の活動  
 に少しでもお役に立てれば幸  
 いです。

保育専門講座II

平成二十一年十一月二十六日、神奈川県社会福祉会館において、新宿せいが保育園園長の藤森平司氏を講師に迎え『保育指針 こう実践』をテーマに、保育専門講座IIが開催されました。

午前中の講義では、少子化が一段と進む中、保育所は子どもにとつての『社会』であり、その社会の中で子どもが育っていくことから、子どもに関わるあらゆる施設は、『子どもの最善の利益』を考えな



ければならないこと。そして、そのためには、保育士の専門性が必要であり、子どもの「発達を理解すること」「環境を構成する力」や「人とのかわかりを構築する力」を培うための援助のあり方を考えなければいけないことを熱く語っていらつしやつたことが印象的でした。また、改正された幼稚園教育要領の中に今回、『子育て支援』に関する内容がきちんと位置づけられたことは、とても評価できるとのことでした。

午後の講義では、自園の保育内容や環境、そして、保育士の援助の仕方等について、写真と具体的な事例をあげながら説明をしてくださり、とてもわかりやすく、勉強になりました。特に『子ども同士の関わり』が大切であることから、異年齢児交流の目を設けていること、幼児クラスの遊びのゾーン決めは子ども同士が相談して決めることが多いこと、5歳児が2歳児クラスに入ってお手伝い保育を行うこと、さらには、トラブル

が起きた時に、子ども同士で自分の考えを伝えたり相手の考えをきちんと聞かため、の『ピーステーブル』と呼ばれる空間が保障されていること等々、三間と言われる「空間・時間・人間」環境が工夫されていることは大変すばらしいと思いました。

終りに今回の研修を通して改めて人的環境である保育士の専門性や資質の向上が重要であり、そのための自己研鑽や研修の必要性を感じました。同時に、今できることから一歩ずつ前進していきたいと思えました。

保育園利用者  
相談室研修会I

平成二十一年十一月二十四日、保育園利用者相談室研修会が行われました。今回は講師に横倉聡氏を迎え、『苦情解決制度十年から学ぶこと』保育の質の向上を目指すために『』をテーマに講演がありました。平成十二年六月の社会福祉法改正により、新たに苦

情解決の仕組みが導入され、我々は社会福祉事業の経営者として、提供するサービスについて利用者からの苦情の適切な解決に努めなければならなくなりました。苦情解決制度の仕組みは基本的には都道府県における対応(運営適正化委員会)と福祉サービス提供事業者による苦情解決という二段構造になっています。具体的には、施設内に苦情受付担当者・苦情解決責任者と解決の為に社会性・客観性を確保するための第三者委員を設置して、それぞれの役割を活かし、福祉サービスに対する利用者の苦情や意見を幅広く汲み上げサービスの改善を図っていくことです。一口に苦情といっても、不平不満や感情的に不愉快に思うこと、問題解決を求め要求すること、納得のいく解決策を要求することなど幅広い内容があります。その原因としては、不平不満や疑問等を受け止めてもらえないと利用者が感じたり、事業者から分かりやすく重要事項の説明がなかったりとコ

ミュニケーションがうまくはかれていない場合が多いようです。苦情を未然に防止するためには利用者への説明や情報提供など積極的コミュニケーションをとることが必要だと感じました。そして苦情を受け付ける際の心構えとしては、利用者の言い分をよく聞き、丁寧に・話しやすい雰囲気をつくり受容・共感の姿勢を大切にしながら、相談内容を確認し、相手が希望していることや表面化している要望のほかに潜在的なニーズが隠れていないかを見極め客観的に内容を整理することがポイントとなります。利用者からの事業者に対し苦情が出るということは、それだけ期待されているということになるので、苦情とうまく付き合うためにも日頃から保護者との良好な関係を築き、苦情を受けたときは初期対応に努め、場合によっては第三者委員を活用しながら円満に解決できるように努力していかなければいけないと再確認した研修会でした。

保育専門講座Ⅲ

平成二十二年二月二日、横浜情報文化センターにおいて、「保育専門講座Ⅲ」が前日から雪で、雪化粧をした寒い日でしたが、四十数名の参加者を得て開催されました。

会場には、アイリッシュハーブが設けてあり、研修会の雰囲気とは異なっていた中で、都築理事長の挨拶に続いて、『愛とやさしさで人は育つ』というテーマで、テーブルクロスで作ったという赤いスカート姿の永山友美子先生のハーブの演奏とトークが始まりました。

ハーブは趣味といわれながら、青島前都知事の表彰を受



きました。会場の中にも目頭を押さえる方も多かったようです。ハーブの種類や演奏方法も教え

けたり、ハーブを演奏しながら子どもたちはもとより、お年寄りや拘置所などにも出かけボランティア活動をされたりして、様々な出会いの中で、自らが学ばせてもらってきたことを、あえて、自画自賛し、自分を大切にすることを伝えながら、ゆったりとした美しい言葉とやさしい口調で話されました。

ハーブの三十四本の弦の本一本に思いを込めて演じられました。ことに、「植生の宿」はホームがあることが誰にも必要で、母への思慕の重いがどの子にもあることが語られ、これまでに、めぐり合った子どもたちの、そして、この社会の中で懸命に生きている子達のことを思い、涙が溢れて



ていただき、実際に触ることもでき、貴重な経験ができました。

午後からは、フリージャーナリストの北村年子先生の『自尊感情』を育てる幼児期のかかわり—今保育園こそ希望の場—というテーマで、十四年間のライフワークとしてホームレスとのかかわりをまとめたことの中で、子どもたちに育てていきたいものを熱意を持って話されました。

人が生きていく過程の中で、様々な場面に『道親』が必要である。保育園の子どもたちにとって保育士が、保護者にとつては園長や主任が、その役目を求められている。参加者一人ひとりにとって、『道親』の存在があったこと、これからそうやっていくべきことを

確認しました。言葉で伝えることの大切さを、会場の参加者に質問し、答えを言葉にしていくことで体験させられました。

無意識を意識化し言語化していくことの大切さ、感情を言葉で表現していくことを子どもたちに伝え、育てていくこと。子どもを褒める時「ありがとう」が一番の褒め言葉になることなど、保育者が笑顔で保育し、共感してもらえらる中で『自尊感情』が育てられていくことが望まれていることを繰り返されました。

自分が自分の最高の理解者になること。幸せな母親から幸せな子が生まれる。『NO1』になることだけではないことなど多くの想いがしつかりと伝わってきました。一日ゆったりとした中で自己を振り返ることができ、浄

化された気がしました。

保育所食育研修会

平成二十二年一月二十九日、神奈川県社会福祉会館において、「保育所食育研修会」が開催されました。会場には八十四名の保育関係者が集まり、一日をかけて食育の講義を聴きました。

午前は、「心を育てる・癒す食卓」と題して、聖徳大学児童学部児童学科教授の室田洋子氏より、専門の臨床心理学から、子どもの発達をまじえて食育の講義をしていただきました。

「新保育指針になって調理が



表にでてきた。食は指針の五領域のどれにもくつついていくものである。保育園はバラエティに富んでいるので面白い事が出来る。野菜作りも一年中季節の野菜が有ると良い、地域の土いじりに長けている人に仲間に入っていただいて、チームを組んで行くと、人のつながりが出来ていく。そして、子どもたちは自分たちで作ったものは特別な気持ちを持って食べる。皆で食卓を囲み、『おいしいね！』と会話をいただくのである。コミュニケーション障害の子どもたちの状態を改善するのにも、たのしい食卓を囲むことがとても有効。特に乳児の離乳食の一さじずつ丁寧言葉掛けながら食べさせてあげることが重要であり、人へのベシックトラストが形成されていく」と話されました。

午後からは『食を通して意欲を育む』と題して、夏見台幼稚園園長の南部愛子氏より、ビデオを交えての講義を聴きました。

「乳児保育の大切さを感じる



中で食育は意欲を引き出し育む教育である。生活リズムが乱れて夜型の子ども・朝食を食べない子が増える中で、園では十分に遊び、休息のための午睡をしている。食事はその子どもにあった保育を心がけており、お楽しみ給食・クッキング保育・親子クッキングなどを実施する中で、子どもたちの表情も変わってくる。また、乳児期は大切な時期なので食事は一対一で食べさせている」などの話がなされました。

二人の講義を聴かせていただき、あたりまえの食について見直し、食育の大切さを改めて考える良い機会となりました。

## 保育園利用者 相談室研修会Ⅱ

### 保育園における

#### 苦情事例を共同研究

三月一日、ホテルキャメロットジャパンにて、第二回保育園利用者相談室研修会が行われました。

理事長挨拶の後、苦情事例を使ってグループでの話し合いが行われました。

二事例とも保育中の職員の間を巡っての苦情でしたが、グループで活発な意見の交換が行われました。一つの事例では、四歳児の保護者が保育中の指導に疑問を感じ、ノートにて苦情解決担当者に話し合いを求めてきたときのものです。

苦情内容は、「保護者がお迎え時に、他児が外で遊んでいるのに、本児は室内で保育士から指導を受けていることが多い。子ども同士でやったり、やられたりしている中でなぜ

うちの子だけが指導されているのか」というものでした。グループの話し合いでは、保護者が一番訴えたいことは何か、保護者の気持ちを汲んだうえで誠意を持った対応と謝罪ができていくか、保護者と担任との信頼関係はできていくかに絞って検討しました。

築いていくうえで大事なことではないかと確認し合いました。

このケースの場合、指導されて外で遊べないことを保護者は罰だと感じ保育園は楽しく過ごす場所であってほしいという願いを持っているのに、子どもが園を嫌いになるのではないか。お迎え時に指導されている場面を見れば保護者は、その時間を長く感じるだろうし、「うちの子だけ」といった印象を強く持つてしまうのではないかと意見がありました。また、苦情の対応については、保護者の気持ちに共感と謝罪を交えながら、園の方針や指導を時間をかけて伝えていく必要があるとの意見が出ました。特に、日常の保育の中で、ささいなことでも担任の口から保護者に伝えていく積み重ねが信頼関係を

各グループでの話し合いの結果の発表後、第三者委員の先生方からお話がありました。特に事例から何を読み取るか、職員が時間を作りながら絶えず話し合い、事例を通して学んだことを実践することが必要であること。保育者は、保護者の気持ちを汲み取りながら、どうしてそういう対応をするのかをきちんと伝え、保護者と共に分かり合える関係に発展させていくことが大切であると学びました。言葉によつて伝えなければならぬ問題は、言葉だけに感わされず、保護者の「気持ち」を汲み取り共感の姿勢を持つて臨むことが大事であり、また応答する人の人間観が出てしまおうというひと言は心に重く響きました。

事例を提供してくださった園の先生方のご協力に感謝しながら、さらに事例研究を重ねていきたいと考えています。



# 神奈川県保育士会 「五十周年のつどい」

## 第一部 式典

平成二十二年二月七日(日)、県立県民ホール・大ホールにおいて、「五十周年のつどい」に、約千六百名という多くの保育士や保育関係者が参加して開催されました。

式典では、諸星副会長の開会のことば、保育士会三十周年記念曲「あなたへのおくりもの」の斉唱、児童憲章の朗読に続き、貝塚会長の主催者挨拶がありました。

貝塚会長は、「保育士会創立



神奈川県保育士会50周年のつどい 平成22年2月7日 神奈川県民ホール

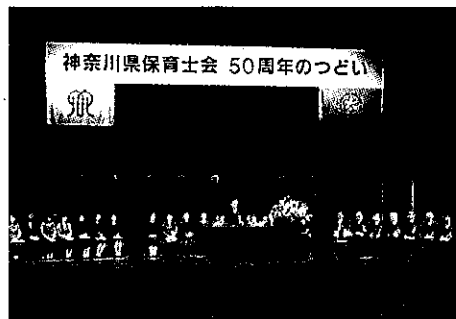
五十年の歴史の積み重ねの中で、行政や神奈川県保育会な

どの関係団体、保育園の園長先生の皆様方のご支援・ご協力に感謝いたします。」そして、「昨年の冬には、一般社団法人神奈川県保育会の準会員として新たな歴史を歩むことになり、今まで引き継いできたものを大切に、新たな未来へはばたく子ども達のために、情熱を注いでまいりたい。」と抱負を述べました。

次に、功労賞として、太田和保育園の藤沼直美様、清心保育園の高野優子様に、表彰状と記念品が、平成元年度から二十年度までの歴代会長には感謝状と記念品が贈呈され、会場から盛大な拍手をもって祝福されました。

その後、六十名の来賓を代表して、神奈川県の古尾谷光男副知事、国吉一夫県議会議長、服部信明市長会会長、都築融光保育会理事長から、お祝いのお言葉をいただきました。

そして、来賓紹介、祝電披露が終わり、休憩後、日本を代表するコーラスグループ



「ボニージャックス」の記念コンサートが開催されました。

約一時間がわたるコンサートでしたが、「大きな古時計」や「春よ来い」、「早春賦」、「荒城の月」、「空とぶうさぎ」などの名曲を次々と披露していただき、抒情あふれる美しいハーモニーと清潔で明快な歌い方で、参加者の心を和ませ豊かにしてくれました。

## 第一部 懇談会

会場を、近くの「ワークピア横浜」に移して、約二百五十名の参加を得て、懇談会を開催しました。

貝塚会長は、「まだまだ未熟

な保育士会が、今後に向けて

皆様方のお力をお借りしながら、発展・飛躍することを願っております。」と述べました。

続いて、奥村栄民間保育園協会理事長、平野建次保育士養成施設協会会長からのお祝いのお言葉の後、富米野知子ゆりの会会長の乾杯により、懇談の場となりました。

ここでは、「お楽しみ抽選会」が賑やかに行われましたが、その後、「ボニージャックス」の西脇久夫さんからの突然のサプライズ提案の「じゃんけんゲーム」が行われ、西脇さんとのゲームに勝ち抜いた約二十五名に、CDアルバムがプレゼントされました。

こうして、終始和やかな雰囲気のもとで、懇談会は進み、宮田丈乃保育会副理事長の締めに、幕を閉じました。別れを惜しむ声もあちこちで聞かれました。

朝早くから、会場設営等に携わったスタッフや保育士会執行部の表情は、大事業を成し遂げたという満足感と安堵感に満ち溢れていました。

## 編集 後記

春の訪れを感じさせる季節になりました。虫や鳥たちの動きも活発になり、それに合わせるかのように、わが保育園の園児たちも元気を増してきています。

神奈川県保育会も、先輩先生方のご活躍により、来年度は、五十周年を迎えることになりました。また、この節目に、一般社団法人として、新たな保育事業界の大海原に出航したばかりで、航海の先待つ世界はどんなものなのでしょう。楽しみですね！

広報部として、保育かながわの発行やHPの運営に於いて会員皆様のご協力に感謝申し上げます。なお、HPをリニューアルいたしました。皆様に役立つ保育情報を満載し、一層充実させますので是非ご利用ください。